



陽気は幸せの種

No111

2016.6.15

●ホームページからも「陽気だより」
最新号・バックナンバーをご覧いただけます

<http://yotokusha.com/>

陽気だより

図書出版 養徳社 〒632-0016 天理市川原城町 388 TEL 0743 (62) 4503 / FAX 0743 (63) 8077

養徳社

検索

昭和44年6月号から

「陽気」は、昭和24年4月の創刊、今年で67年を迎えます。過去の記事から、その歩みの一端を振り返ってまいります。

告げられた“ガン”

かみ お さとる
神尾 知

(昭和四十四年当時
名昇陽分教会長・医学博士)

あるクリスチャンの入信

日赤の看護婦長として厚生省技官の肩書きをもって内外に活躍した永山ゆき姉は、定年退職後、独り暮らしの気安さから悠々自適の生活を送っていた。そのうちに遊びあきたので就職したいといってきた。過去の経歴からしても、また性格的にも、とうてい人下になつて働けるような人ではない。そこで人生の再出発として修養科をやってみようかとすすめたら、二つ返事で承諾した。それも天理市内に自宅を持ちながら、詰所に入って、みんなと起居を共にすることにした。この人を知ると素直に聞ける人ではな

かったらしい。詰所の生活に何の抵抗も感じないばかりか、学校で教話を聞かせてもらうのが楽しみで、居眠りする人の気が知れないといっていた。本部の朝夕の「おつとめ」も欠かしたことがない。

私のところでは、修養科を終わったら二カ月間は教会に住み込ませることにしている。その間、朝夕の「おつとめ」にしても、神様へのお仕えにしても、いかにもソツがない。

このような経歴の人には珍しい。あとで分かったことであるが、この人は立派なカトリックの信者で、幼少のころに洗礼も受けているということである。それなのに、天理教の信仰に何の矛盾も感じない

ばかりか、かえってキリスト教の教えがよくわかるようになったといっていた。

検定講習もすみ、天理を永住の地と定めて、ある地区のお世話をさせてもらうことになった。体は健康であるし、マメに立ち回るので、地区からもたいそう喜ばれていた。

名昇陽の月次祭には、わずかながらもお供えを欠かしたことがない。私はこの人にお話したことについては一言も話したことがない。毎月の私のおちば帰りを唯一の楽しみと待っているのがあった。

ところが、いつのまにか行方がわからなくなり、まったく音信不通となった。聞くところによると、ある宗教の人から、いつまでも天理教にながっている、全財産を巻き上げられてしまうぞ、と忠告されたということである。

そんなことでぐらつくような信仰でないはずなのに、おかしいと思つた。今から逆算すると、ちょうどそれが発病のころかと思われる。体内に病気が発生すると心のバランスを失って、心境の変化をきたす。食べ物嗜好まで変わる。そこにいんねんの誘惑がくる。右か左かという岐路に立たされるような事情が必ずおきる。

そうしたときに、私たち凡人の浅ましきで、つい、いんねんに引きずられてしまうのである。

「ガン」を告げる

その後の動静については知る由もなく、かげながら健康と長寿を祈るのみであった。ところがある日、計らずも「憩の家」の病室で久方ぶりの対面となった。ひと目みてガンとわかる表情であった。家出したいとし子が病みほうけて

陽気

7月号

月刊『陽気』
定期購読受付中

お 店まで買いに行くのが大変。忙しくて購入するのを忘れた。定期購読はそんな手間を省きます。

毎月20日前後にご自宅宛に発送いたします。

(例：7月号は6月20日)

定期購読料金 1年分…3,420円(送料込)

半年分…1,710円(送料込)

特集 私を変えたおちば

連載

◎子どもと貧困

◎求道実録

購読に関する問合せ先 養徳社 業務部窓口

☎ 0120-920-398

親元に帰ってきたような思いである。心からその労をいたわり、さつそく「おさづけ」を取次がせていただいた。

胃潰瘍という診断のもとに手術を受け、術後の経過は順調であったが、それからまもなくのこと、自分の病気がガンではないかということをお私にたずねる。まんざら素人でもないし、疑いをもちはじめているとみたので、ズバリ本当のことを教えた。病気が何であろうと、人間は病気で死ぬのではない。死ぬのは寿命である。死ぬべきときがきたときに、いんねんに応じて病気が出るのである。病気が治るか治らないか。死ぬか生きるかは神の領分である。たとえガンであっても、今日一日生かしていただいたことのお札を申し上げなさい。神様は全人類の親である。わが子を見殺しにする親はない。必ずたすかる。それは病気そのものではなくて、魂永遠の救いである。本人はガンでもハトでもけっこうです、といってケロツとしていた。あえてやせ我慢でもなさそうである。もちろん主治医には後でそのことをこわっておいた。

みごとな最期

その後の経過もきわめて良好で、予定通りに退院することができた。そして、これらの余生を人だすけの道にささげたいといって、直ちに行動に移した。日々を喜び勇んで通っているうちに、半年目で肝臓にガンが転移し、再び「憩の家」に入院することになった。そのとき、一生かかって粒々辛苦貯えた全財産を「ぢば」に伏せ込み、衣類は全部お世話になった人々に贈った。これでさっぱりしたといつて、そこにはいささかの未練も執着もない。身寄りのない独身ぐらしの老婆としては、あまりにも鮮やかな離れっぷりであった。

このことよってガンのいんねんが切りかえられたものか、胃部には岩のような塊があり、腹水がたまつて狸のような腹をしているのに、何の苦痛も感じない。吐き気もなければ食欲もすこぶる旺盛。便通も健康者なみ。何を食べてもおいしい。病気のおかげで珍しいものを食べさせてもらえるといつて、いつもここにこ顔で、夜も昼もよく眠る。

病人の苦しみは病気そのものためではないことがわかる。そうしているうちに胃部のシコリはほとんど触れなくなり、最期まで好きなものを食べながら安らかに出直した。私は死後にも「おさづけ」を取次ぐことにしている。死顔の表情、死後の硬直もこない。遺体は病理解剖に付した。生涯を医療の道にささげたものとしては当然のことである。火葬場の人が焼けた遺骸を見て、珍しく心のきれいな人です、ねといつて感心していた。葬儀は教会葬として、霊は祖霊殿に合祀することにしてある。来世は立派な道のようなくとして生まれかわってくるであろう。生前に定めたことは来世必ず実現される。魂は生きどおしだからである。

養徳社営業予定

赤字は休業日

7月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

31	おつとめ (1日～15日) 朝5:00 夕7:30 (16日～31日) 朝5:15 夕7:30					
----	---	--	--	--	--	--

8月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

	おつとめ (1日～15日) 朝5:30 夕7:15 (16日～31日) 朝5:30 夕7:00					
--	---	--	--	--	--	--

作品
募集中

第6回公募

養徳社エッセイ賞

募集テーマ

「あの日あの時の味」

募集要項

- 枚数 A4判400字詰原稿用紙8～10枚(3200～4000字)
- 締切 平成28年8月31日必着
- 発表 月刊誌『陽気』平成29年新年号
- 入賞 1等 正賞/トロフィー 副賞/10万円(1名)
- 佳作 正賞/トロフィー 副賞/3万円(2名)
- 送り先 〒632-0016 奈良県天理局私書箱15号 養徳社エッセイ賞係
- 問合せ 養徳社 TEL:0743-62-4503 FAX:0743-63-8077

※詳細は月刊『陽気』6月号をご覧ください。

【陽気担当者変更届け】陽気お取扱者ご担当者様のご変更の際、弊社ホームページよりファイルをダウンロードいただき必要事項にご記入いただきファックス下さるか、メールでご連絡ください。折り返し担当者からご連絡させていただきます。

FAX...0743-63-8077 (24時間 年中無休) 郵送...〒632-0016 奈良県天理市川原城町388 養徳社 業務部

メール...youtokusha-eigyou@poem.ocn.ne.jp